

宗像における遥拝

沖ノ島は、宗像沖にある聖なる島です。沖ノ島に上陸できるのは、ここで奉仕する一握りの神宮に限られています。人々が沖ノ島の沖津宮に祀られている神に祈り、聖なる沖ノ島に祈るためには、遠くから祈る「遥拝」を行う必要があります。

遥拝は、宗像一帯で広く行われています。宗像地域では、宗像三女神（辺津宮、中津宮、沖津宮に祀られています）が1,000年以上にわたって崇められてきました。いくつかの場所には大島にある沖津宮遥拝所のような拝殿が建てられてきましたが、宗像周辺の多くの遥拝所は山の上や浜辺など、聖なる島を一望できるシンプルな見晴らしの良い場所にあります。宗像一帯には、さつき松原遊歩道沿いなど遥拝を行える場所がいくつかあります。

20世紀半ばまでは、沿岸部を中心に沖ノ島の神を祀る儀式が当たり前のように行われていました。農民たちは遥拝所で食べ物と酒を供え、田植えの時期にその成功を感謝し、五穀豊穡と無病息災を願っていました。これらの正式な儀式は稀なものになってしまいましたが、この地域の人々は今も遥拝所を訪れて祈りを捧げています。